

生涯職能学習社会は実現できるか

特定非営利活動法人学習開発研究所(ILD)

代表 西之園晴夫

これまでにILDが追求してきた学習の原理

- ILDで追究してきた協調自律学習は、国策としての「自立・協働・創造に向けた一人一人の主体的な学び」に符合している。
- 共時性と通時性、空間と時間の概念の導入
- メタファ、イメージ、モデル、命題
- 改善と変革の使い分け
- 基本的情報としてのテキストと学習ガイドブックの開発

遠隔地での協働自律学習

- 協働自律学習
- 土着知識：知識の源泉を現地に求める。現地主義
- 三者共栄：生産者－消費者－調理・製菓のコラボ
- 学習者中心主義：学ぶことの主体性の回復
- 知識吸収から知識創造へ：学ぶ共同体の生産性

- 過去の京都府委託事業 ⇒ 京都北部の開拓に失敗
- 電子回路などの技術学習試行 ⇒ 学習グループ編成が困難、小規模企業の学習への投資は無理

- 新しい発想が必要である

三者共栄(三方よし)による協働

